

取り組んでいるプロジェクト多数。まずやってみる。

行政はできない理由を並べる天才。新しい試みに挑戦することが苦手です。山崎誠政策研究所ではプロジェクトを組んでモデル事業を実施中。防災、環境、地域活性化などの分野で新しいアイデアを実証、政策提案につなげています。



防災訓練にて共助支援システムの解説をする

災害に強い街づくり「共助支援システム」

2007年から桂小学校地域防災拠点にて導入を進める。災害時の地域の被災状況を地図上で把握する仕組み、災害直後の共助の可能性を広げる。地域の約550世帯の賛同を得て本格稼働へ。かけがえのない命を救う仕組みがほぼ完成。



青葉区・緑区ほか各地で森のつみ木広場を開催

森と都会をつなぐ「森のつみ木広場」

道志村の間伐材から生まれた無垢のつみ木1万個をつかって遊ぶつみ木広場を開催中。一つ一つの作品がつながり大きな街が出来上がる。木の香り手触りを感じて、つみ木の故郷、森のことを学ぶ。また所有から共有の文化へ、大切なものは何かを伝える。



「いきいき通信」のポスター(学生インターン作)

お年寄りと地域をつなぐ「いきいき通信」

孤立しがちなお年寄りや地域を結ぶ心のコミュニケーションをFAXを使って実現する。お元気FAXで安否確認、よりどりFAXで地域の情報を発信。テスト運用を実施した。

いまから3年、岐路に立つ日本のためにやるべきこと。

経済優先で拡大を続けてきた日本は今、大きな岐路に立たされています。これまでの経済至上主義の政策では本当の幸せは実現できない。日本社会を支配するパラダイムを、「経済」から「環境」へ、物質的な豊かさを追求する社会から自然環境との調和、自然との共生を目指す社会へと転換することが必要です。第1次産業を立て直し、食料自給率を高め食の安全を確保する。モノの消費、エネルギーの消費スタイルを変える。豊かな自然環境を媒体にして人と人の結びつきを取り戻し、働き方を変える。持続可能な真に豊かな社会を実現し、世界に日本モデルを発信する。

政治も行政も国民も思い切った発想の転換が必要です。社会の変革のためのマネジメント、科学の確立を目指し、確かな明日をリードする政治を実践します。

衆議院議員 山崎 誠

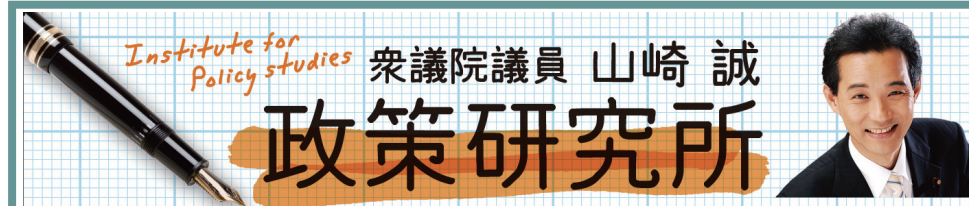
ホームページ: <http://makoto5050.net>
ブログ: <http://makoto5050.typepad.jp>
Twitter: 「yamazakimakoto」で検索してください
e-mail: info-yamazaki@j05.itscom.net

■青葉台事務所
〒227-0062 神奈川県横浜市青葉区青葉台1-24-1-2F
TEL: 045-577-0500 FAX: 045-577-0525

■国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2
衆議院第二議員会館1016号室
TEL: 03-3508-7741 FAX: 03-3508-3061

プロフィール

1962年生寅年。武蔵野の面影残る練馬で生まれ育つ。都立西高校、上智大学法学部法律学科卒業、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科国際ビジネス専攻修士課程修了。(株)熊谷組、日揮(株)勤務。民主党の候補者公募に応募して政治の世界へ転身、2006年3月より横浜市議員を2期3年半務める。2009年8月の衆議院議員選挙に神奈川県第8区(青葉区・緑区)にて立候補、初当選。民主党神奈川県第8総支部長。常任委員会は環境委員会、内閣委員会委員(2010年10月から)。横浜国立大学大学院環境情報学府博士課程後期在学中。GISを使った防災、自然環境保全に関する研究を進める。青葉区桂台在住。趣味は自転車、トロンボーン演奏、音楽鑑賞、絵画鑑賞、写真撮影、アウトドア、仕事。



山崎誠政策研究所通信 — 1年総括号 —



発行: 山崎誠政策研究所通信編集委員会
〒227-0062 横浜市青葉区青葉台1-24-1-2F
TEL: 045-577-0500 FAX: 045-577-0525

発行日: 2010年10月20日

政権交代から1年、岐路に立つ日本のためにできたこと、できなかったこと。

政権交代が実現した2009年8月。託された日本は大変厳しい状態にありました。景気の低迷、失業者の増加、社会保障制度の崩壊、教育現場の破綻、増え続ける財政赤字など、右肩上がりの経済成長にどうにか支えられてきた制度や仕組みが一気に崩れはじめ、過去の遺産でなんとか過ごしてゆける時代は終わりました。

少子高齢化、気候変動、新興国の台頭など、目まぐるしく変化する情勢に対応しつつ、新しい日本のかたちをしっかりと描き、実現してゆかなければなりません。民主党の改革は始まったばかり。この1年、環境、防災、まちとづくりを軸に政策提案を重ねてきました。活動の一端をご報告いたします。



衆議院議員 山崎 誠

国会にて質問に立つ。明日の日本を提案する。

議員にとって委員会、本会議での質問は命です。十分に調査、研究して質問に臨みます。質問を通して、批判ではなく政策提案を行う。私のモットーとするところ。この1年で、環境委員会、法務委員会、予算委員会分科会、本会議と計6回の質問に立ちました。

環境委員会 2009.11.20

環境の基本施策に関し、国会初の質問に立つ。まず日本の環境政策の在り方、考え方について議論しました。総理大臣直轄の環境諮問委員会を設置し、省庁横断で環境の視点から各種事業のコントロールを行うことを提案。また、遺伝資源に関する戦略的な取り組みの必要性について訴えました。

予算委員会第6分科会 2010.2.26

日本の国土の約7割を占める森林の現状と課題、日本の森林整備について質問。平成11年の364haから平成20年には1445haへと被害が広がっているナラ枯れ。殺虫剤散布による対処療法から炭を活用した樹木の活性化、森の体質改善へ。日本の森を元気にする取り組みを提案。

法務委員会 2010.3.26

法務委員会の一般質疑。都市整備のネックとなっている全国に約750地域、820平方キロメートルあるといわれる「地図混乱地域」の解消について質問。例えば、進まない狭い道路対策のために、土地の所有関係の基準となる地図の整備が不可欠です。

衆議院本会議 2010.5.11

本会議での初質問。環境影響評価法(環境アセスメント)改正案について質問。環境と経済の両立をどのように実現するのか。環境は人類の生存の基盤であること、経済最優先の社会から自然との共生社会への転換の必要性を訴えました。CO₂削減のために原子力発電所を建設、その工事で貴重な自然が破壊されるという矛盾をどう回避するか。



民主党・無所属クラブ 山崎 誠

環境委員会での質問の様子

環境委員会 2010.5.14

地球温暖化対策基本法について質問。排出権取引制度や再生可能エネルギーの全量買い取り制度等の導入を実質的な温暖化効果ガス削減にどうつなげるか、国際交渉における日本の役割は何か、基本法にどのようにして魂を入れるのか質しました。

環境委員会 2010.5.25

本会議に引き続き、環境影響評価法（環境アセスメント）改正案について質問。上関原発を例にとり、環境と経済の調和、かけがえのない自然を守ることの意義と原子力発電所建設の意義について、環境省、経済産業省と議論しました。



2010.5.11 衆議院本会議の議事録より

「豊かな自然はなぜ大切か。人間は、絶妙なバランスで支え合い成り立っている生態系の一部であり一員です。健全な生態系の維持なくしては人間の生存はあり得ません。自然へのノスタルジーや郷愁で言っているのではありません。科学的な事実として理解していただきたい。豊かな自然は人間の生存には欠くべからざる基盤です。経済成長を前提とした幸福追求に邁進してきた我々は今、その成長の限界に到達しつつあります。それとともに、地球温暖化、生物多様性の破壊等、地球レベルの環境危機に直面しています。人類の生存を確かなものにするために、経済優位の価値基準を修正して、環境重視の社会へとかじを切らなければなりません。国づくり、物づくり、人づくり、あらゆる場面で自然環境との調和を実現する新しい自然共生社会の創造が求められていると考えます。」



衆議院本会議での質問の様子

事業仕分けに参画。行政の高コスト体質を一掃。

民主党の核になる施策の一つである事業仕分け。中央官庁が提案実施する事業について、事業レビューシートに基づいて一つ一つチェック、ヒアリング調査を実施して問題を発見します。すでにおおよそ5500の事業について点検してきました。

税金の使いみち、使い方をチェックする事業仕分け。これまでほとんど明らかにされることがなかった行政の事業の内部に切り込む手法として期待されています。無駄遣いを見つけ出すことにより、直接、財源を生むことも当然期待されますが、行政の構造改革、すなわち天下りや特権、利権が生まれる行政の仕組みの改革、行政におけるコスト感覚の醸成など、行政の高コスト体質を改めることが本来の目標になります。また、事業仕分けのプロセスを国民に公開することで、税金の使われ方について分かるようにすることも重要な目的です。

第2弾の事業仕分けでは、独立行政法人、公益法人の事業仕分けを実施。文科省関係の公益法人を担当し、ヒアリング調査を実施しました。資料としての利用価値が疑われる冊子を文科省の情報をもとに独占的に毎年発行し、その収益で運営している法人、研究助成の申請に理事の推薦を必要とするため関係者に応募が偏る事案など、不合理な事業が見つかりました。

また、第3弾では、経済産業省の事業の再仕分けを担当。第1弾、第2弾の指摘が予算編成に反映されているかを厳しくチェックしました。廃止になった事業がほぼ同じ内容で名前だけ変えて復活しているケース、人件費等経費の削減の指示が出たにもかかわらず高給はそのままだに事業の中身にかかわるコストが削減されているケースなど、多くの問題が見つかりました。

事業仕分けは一過性で終わらせず、継続が必要不可欠です。



財団法人日本農業研究所にてヒアリング



全国伝統的工芸品センターを視察

国内・海外を駆け回る。答えは現場にあり。

机の上で考えていても本当の解決にはならない。現場に向き、人と会い話し合うことで、真実は見えてくる。この1年、国内外の現場へ、できる限り直接足を運んできました。現場での発見に基づいた政策提案を展開中。以下は訪問した現場の一部です。



中国の金融政策について調査（中国）

中国人民銀行訪問、実務担当者へヒアリング。変容する中国の金融戦略の一端を理解する。世界の金融市場で中国がどう動くか注視が必要。
2009. 12. 11

片道5時間、檜洞丸に登る。丹沢の森にもナラ枯れが広がっている。炭を撒いて森を元気にする対処法についてその有効性を検証する。
2010. 8. 10



丹沢にてナラ枯れ調査（神奈川）



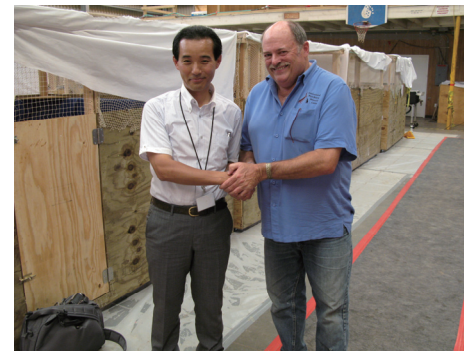
iEARN 国際会議カナダ参加（カナダ）

国際教育ネットワークiEARNの国際会議で基調講演。世界各国から教師、研究者が集う中、日本人はわずか。日本の国際化教育の遅れを実感する。
2010. 7. 13

釜山・仁川・ソウルを訪問。経済特別区の制度をフルに活用して世界都市を創る韓国のダイナミズムを目の当たりにする。写真は釜山広域市庁訪問。
2010. 8. 23



大都市制度に関する調査（韓国）



メキシコ湾の原油流出事故調査（米国）

Fort Jackson 野生生物リハビリテーションセンター訪問。事故後わずか10日間でセンターを立ち上げた米国の危機管理、自然保護に学ぶ。
2010. 7. 17

台風の中、田ノ浦の原発建設予定地へ。建設反対派の要請書を受け取る。生物多様性のホットスポットを守るために何ができるか再考する。
2010. 9. 7



上関原子力発電所建設予定地視察（山口）

地域に聞き、地域に語る。思いは現場にあり。

地元の皆様の声をどのくらい聞けるか、どれだけ納得していただけるか。政治の信頼を得るために国民の皆様との対話は不可欠です。時間の許す限り街に出て、近くにいていつでも話ができる、意見の言える議員を目指して活動しています。

毎月、地元青葉区と緑区にて地域懇談会を開催。2時間半にわたりじっくりと意見を交換する「熟議」を実践しています。国のあり方から地域の課題まで、地方議員も参加して地元の皆さんの悩み、思いにお応えしています。駅頭での活動も実施。多くの方に国政の報告を直接聞いていただいています。



地域懇談会開催（長津田地区センター）



駅頭風景（たまプラーザ駅前）